

萩 姫 物 語

- ・ 物語は今からおよそ700年前、鎌倉幕府が倒れ、鎌倉時代から室町時代に入る最初の60年間「建武の新政」「南北朝の対立」の頃
- ・ 萩姫は後醍醐天皇の側近、三人の公家の一人「中納言 万里小路藤房」の一人娘
- ・ 後醍醐天皇の側近、三人の公家の一人「大納言 北畠親房」の長男 北畠顕家との婚約が決められていたそうです。
- ・ 元弘3年（1333年）150年に及ぶ鎌倉幕府の武家政治が幕閉じました。この頃、万里小路藤房の一人娘 萩姫は奇妙な病にとりつかれ、床に臥していました。
- ・ 身体全体に赤い湿疹ができ、痒みと痛みとで苦しんでいました。京都でも評判の美女で、年が明ければ御所に出仕することが約束されていただけに、大きなショックでした。
- ・ 天皇の侍医に往診を依頼したり、中国から帰国した留学僧から薬草をもらったり、あらゆる手だてを尽くしましたが容態は少しも快方に向かいません。
- ・ 萩姫の乳母であり、侍女として仕えている雪枝は单身比叡山に上り、荒行による悪霊追放の祈願を行いました。
- ・ 雪枝にとって満願の日、洞窟から出ようとしたその時です。白衣を着た光圓法師が現れ「不動明王からお告げを頂いた。姫は全快する！都を去る東北の方、五百番目の川のほとりに霊湯あり、その湯にひたること一年にして姫の病は完治する。」雪枝は改めて別当から不動明王の御守護札を受け、二十二日ぶりで万里小路家に帰りました。
- ・ 萩姫みちのくに下る。萩姫たちの一行は東山道（当時の国の数でいえば七カ国）『近江国（滋賀県）→美濃国（岐阜県）→飛騨国（岐阜県）→信濃国（長野県）→上野国（群馬県）→下野国（栃木県）→陸奥国（福島、宮城、岩手の一部）』を通り、現在の福島県、みちのくの入り口白河の関にたどりつきました。
- ・ 白河から、松田（釜の子）、岩瀬（須賀川市）を過ぎて、安積郡家のある蘆屋の里（安積の里）に入りました。ここから北に3つ目の川が念願の五百番目の川です。里の人に尋ねてみると、逢瀬川、藤田川を渡った三つ目の川はすでに「五百川」と呼ばれていました。
- ・ 萩姫一行は里人たちの案内で五百川のほとりに立つことができました。そして、川の上流を目指して歩き出すと、川幅は次第に狭くなり、岩石も多く露出して、溪流のまわりをとり囲む樹々の緑も目にしみます。
- ・ しばらく進みますと小さな池から白い湯煙が立っていて、そこから、こんこんとお湯がわき出ています。そのお湯に萩姫の手を浸しただけで、赤い湿疹の色が少し薄れたようでした。
- ・ 萩姫たちは、近くにある高玉館の城主、安積伊東氏を訪ね、事情を説明し、この霊湯のほとりに湯治用の一軒家を建てる許可をもらいました。この一軒家が今日の磐梯熱海温泉の発祥になるわけです。当初は「萩の湯」「五百川の湯」と呼ばれ親しまれていました。

萩姫プロフィール

1. 京都でも評判の美人

- ・文化的でおしとやかなイメージ

趣味：百人一首（当時は「小倉山荘色紙和歌」「嵯峨山荘色紙和歌」などと称された）
（上代の天智天皇から、鎌倉時代の順徳院まで、百人の歌人の優れた和歌を年代順に一首ずつ百首選んだものが小倉百人一首の原型と言われている）

- ・萩姫本人も和歌を得意とした
- ・「美人の湯」と称されている磐梯熱海温泉の湯に浸かっており、色白で張りのある肌
- ・当時の平均的身長を考えると 150 c m 位
- ・艶のある長い黒髪

2. 年齢

- ・嫁入り前（婚約中）
- ・婚約者 北畠顕家の生まれが 1318 年とされており、14 歳（1332 年）で正四位上に昇任、近衛左中将としても活躍している。
- ・元弘 3 年（1333 年）150 年に及ぶ鎌倉幕府の武家政治が幕閉じました。この頃、万里小路藤房の一人娘 萩姫は奇妙な病にとりつかれたと記録があることから、物語上では『14 歳』前後であると推測される。

3. 性格

- ・公家の娘で、若いということもり世間知らずのお嬢様（基本的に上から目線）
- ・侍女 雪枝の萩姫を想う行動から考えると、やさしさ、思いやりを持った女性
- ・福島まで歩いて行ってしまふほどのバイタリティー
- ・行動力とガッツがあり、未来に対しポジティブ

福島県磐梯熱海温泉 温泉の恵みに感謝する『萩姫まつり』

